

平安時代のすがたに

よみがえったご本尊さま

昭和三十四年秋、国立博物館の佐藤昭夫文部技官に、今回修復をしたご本尊の調査をしていただきました。その折の調査では、室町時代以前のものではないか、と言いつつでしたが、今回の修復のなかで、「平安時代後期の作に間違いは無い。」との判定をいただきました。

今回、修復をしていただいた本間紀男先生は、東京芸術大学美術学部彫刻専攻科を卒業され、同大学院保存技術講座で教鞭をとられ、現在は、仏教造形研究所長で、工学博士として日本古代彫刻技法の研究、仏像修復技法の研究を積まれ、指定文化財



国立博物館佐藤昭夫技官撮影の尊像

たのでしよう。火災を逃れる為に運び出された折に、仏の背中を飾る光背などは失われ、またかざり類なども失われ、頭部の十一体の仏面や、仏足などのほとんどは、ねずみにかみちぎられて破損し、仏様のご本体だけが、今日まで守られて来たのでしよう。

の修復や復元を数多く手がけてこられました。
この先生の修復調査のなかで、常楽寺の十一面観世音菩薩像は、平安時代後期に作られたものであることが立証されました。そして今回の修復で、この仏像が最初に作られた当時のまばゆい姿に、蘇ったのです。

また、周辺には寺が建立されていなかった、九百年余も前の時代に、この立派なご仏像をまつる寺が建立されていたことが、推測されます。

立派な常楽寺が建立されていたからこそ、その後を迎える鎌倉時代の様式の、立派な墓石が残され、南北朝時代の年号が残る、供養塔が旧常楽寺の墓地に残されているのもわかります。

寺は、度重なる火災で、僅かに焼け残った過去帳の一部が残るのみで、寺はまったく疲弊してしまいましたが、火災のたびに、「ご本尊だけは運び出され

そして今、九百年余の年月を経て、作られた当時の姿にもなることができました。

この仏像が作られた、平安時代後期といえは、NHKの大河ドラマで、先に放映された「平清盛」の活躍されていた時代で、その時代に建立された寺は、この界限では数ヶ寺だったと思われれます。

修復の細かな過程は、「ひすまき明王堂」に展示してありますので、じっくりご覧いただければお解かりいただけると思います。

一つ一つの部分を丹念に調べ、壊れたり紛失してしまった部分は、吟味された材料で、時代に沿った様式を大切に検証しながらの補修で、その様子を見学させていただきましたが、大変緻密な仕事で、それはまた根拠のいる作業でした。

平成24年度常楽寺護持会会計報告

滋忠 秋康
庭安 安達
会計 会計

《収入》

| | |
|-----------|----------|
| 繰越金 | 272,014円 |
| 会費収入 315戸 | 630,000円 |
| 利息 | 29円 |
| 収入合計 | 902,043円 |

《支出》

| | |
|---------------|----------|
| 平成24年度宗費賦課金 | 393,900円 |
| 常楽寺境内植木手入れ助成金 | 200,000円 |
| 支出合計 | 593,900円 |

《収支残高》 308,143円

《会計監査報告》

平成24年度常楽寺護持会会計決算について、証憑書類等監査の結果正確であり適切であったことを認めます。
平成25年3月20日

会計監査 榎本 重成[㊞]
会計監査 山本 勇[㊞]

常楽寺
だより
平成25年
3月20日